

民俗博物館だより

Vol.46 No.1

2021. 3. 23



産卵を待つ春の金魚養殖池 (大和郡山市新木町)

撮影日時：2014年3月31日午前6時～ 調査・撮影：吉本由梨香 協力：嶋川養魚場
金魚は普通1週間おきに5～6回、魚巢(フサモ・ヒカゲノカズラ)に産卵する。産卵は天候に左右され、
この日は、前日に雨が降って寒くなったため、金魚は草を食べるばかりで産卵には至らなかった。
*当館新常設展示では金魚の養魚用具を展示しています

目 次

- 活動報告 新しいみんぱくへ—民俗博物館の2020年度— 1
- 活動報告 実技講座「大和機で麻布を織る」のこれまで、これから 5
- みんぱく春夏秋冬 令和2年度の活動記録 7

〈活動報告〉

「新しいみんぱくへ - 民俗博物館の2020年度 -」

茶谷まりえ

(1) 一年をふりかえって

2020年は、世界中の誰もが経験したことのない出来事ばかりの年だったと思います。民俗博物館では、新型コロナウイルスの影響に耐震補強工事による休館も加わり、まさしく激動の一年になりました。春のイベントの中止から始まり、大型連休中の園内の古民家・駐車場の閉鎖、予定していた恒例の行事も多数見送ることになりました。「正解」の見えない毎日に不安が尽きませんでした。

しかし、その一方で新たに始めたことも少なくありません。スタッフ同士で「いつかやってみたいね」と話していて、なかなか実現できずにいたことにも挑戦することができました。本稿では、未曾有の出来事に翻弄されながらも取り組んできた民俗博物館の一年間を、教育普及活動を中心にまとめたいと思います。

(2) コロナとみんぱく

■デジタルコンテンツの始動

古民家や梅林、花しょうぶ園といった屋外施設のある民俗博物館にとって、春から初夏は一年間で最も華やか季節です。例年、数日にわたるワークショップまつりや雛人形の展示、かまどを使ったご飯炊き体験などを開催し、多くの家族連れでにぎわいました。そのような折に新型コロナウイルスの感染が全国的に拡大し、奈良でも各種施設の休館や飲食店の休業、イベントの中止が相次ぎ、学校の休校や外出自粛により日常が一変しました。

民俗博物館でも、耐震補強工事の準備に追われる中で出勤する職員の人数を減らしたり、消毒・換気を頻繁に行ったりと、例年以上に慌ただしい年度始めになりました。私自身も、遠方から通勤していることから準備もままならない内にリモートワークに切り替わりました。当たり前の日常が突然無くなってしまったことで最も不安に感じたのは、人の繋がりや季節感が薄れてしまうことでした。その中で、博物館が今できることは何か？家に居ても民俗博物館や季節の行事を楽しんでもらう方法は無いのか？を延々と考え、生まれたのが「デジタルコンテンツ」でした。季節を感じながらステイホームを楽しんでもらおうというコンセプト

で、端午の節句をモチーフにした工作や料理などの7プログラムを博物館のホームページ上で紹介し、菖蒲や鯉のぼりの由来や豆知識を一緒に掲載しました。今ふり返って考えると、対面でのワークショップと異なり参加者の反応が見えないので、かなり一方通行な内容になっていたと思います。また、同僚や上司に十分に相談ができなリモートワークでの新プログラムの計画は、非常に心細いものでした。しかしながら、デジタルコンテンツの公開をきっかけに北海道博物館が主催する事業「おうちミュージアム」に参加させていただいたことで、全国のミュージアムとの繋がりを感ずることができ、自館のプログラムを見直したり客観的に評価したりするきっかけにもなりました。

その後、同コンテンツはブラッシュアップを重ね、秋からは学校の授業でも活用できる「どこでもみんぱく」として公開を開始。現在、季節限定のコンテンツを加えながら無期限で公開しています。



デジタルコンテンツを活用した見学風景

■イベントの運営と葛藤

ここ数年、民俗博物館では年間で十数回の展示と、20プログラムほどのワークショップやイベントを行ってきましたが、今年度はもともと耐震補強工事に伴う博物館の休館が決まっていたため、複数の出張展示やワークショップを計画していました。しかし、新型コロナウイルスの拡大によって各地で大規模なイベントや屋内でのイベントが次々と中止に追い込まれる中、常に「開催できるのか？」「開催しても良いのか？」

と悩みながら準備を行う日々でした。

出張形式にも慣れていない中で十分な感染症対策や健康管理が行えるのかという葛藤は尽きず、「やらない方が良いのではないか？」という考えも度々頭をよぎりました。そのような時、博物館の常連さんから「こういう時だからこそ季節を感じる場所があって嬉しい」という言葉をいただき、前向きな考えに切り替えることができました。ただし、他の施設やイベントでの対策もリサーチし、広報範囲の絞り込みや事前予約制度・人数制限の導入、ワークショップで使用する全ての材料・物品の下準備や小分け化による共有回避、やむを得ずシェアする物品はその都度の消毒か使い捨て、またはスタッフが作業を行う…といった多岐にわたる対策を毎回行い、その時々によって環境の異なる出張形式にも対応できる感染症対策グッズも手作りしました。特に、机に取り付けるタイプの飛沫防止パーテーションは、ホームセンターで購入した塩ビ管を切って繋ぎ、2枚に裂いたポリ袋をカーテン状にして耐水性の目玉クリップで留めるというシンプルな造りですが、机のサイズや組み合わせ方に合わせて長さや高さを変えることができます。さらに、誰でも特別な道具を使わずに組み立て・解体することができ、軽くて持ち運びにも適します。全て丸洗いできる素材でできているため衛生的かつ経済的であるという点も重要なポイントです。決して洗練された見た目ではありませんが、「無ければ作ろう!」という民俗博物館らしい工夫の一つです。

数々の対策を組み合わせ、改善を重ねながら、イオンモール大和郡山では8月に「ミニガラス瓶の風鈴づくり&夏の風物詩ぬりえ」、1月に「作って飾ろう!お団子おひなさま」とパネル展、平城宮跡歴史公園では11月に「みんなで作ろう!秋の紅葉せっけん」、県立図書情報館では12月に一般財団法人奈良の鹿愛護会との共催展「奈良の鹿のひみつ」の関連ワークショップとして「お正月を彩るペア豆鹿皿づくり&奈良公園の「鹿苑」見学会」を開催しました。例年のプログラムに比べるといずれも規模も内容も縮小しましたが、民俗博物館らしい季節ならではのイベントを楽しんでいただくことができました。マスクやフェイスシールド、パーテーションといった「壁」越してはあるものの、直接顔を見て話すことの温もりや有り難みを感じることができ、コロナ禍における教育普及活動の貴重な実践例にもなりました。



飛沫防止パーテーションを使った感染症対策

■小学校の団体見学対応

例年、民俗博物館では秋冬を中心に約70校の小学校の団体見学を受け入れています。その大半が3年生の「昔の道具」や「くらしの移り変わり」に関するカリキュラムに合わせた校外学習ですが、県内各地から来館されるため、当日の動きや見学プランは様々です。従来の見学では、複数校が同じ日に重なった場合、学芸員が館内と古民家にそれぞれ付き、時間をずらしながら解説をくり返すという方法で対応してきました。過去には最大7校が重なった日もありましたが、今年は見学可能エリアが古民家のみであるため、大きな懸案事項になっていました。図らずも新型コロナウイルスの拡大によって見学希望校そのものが大幅に少なくなりましたが、屋外にある古民家や公園エリアへのニーズが増え、これまで利用の無かった学校からの問い合わせもありました。

熟慮の末、今年度は感染症拡大防止対策の観点からも団体見学の受け入れは半日に1校に制限し、古民家だけでも昔のくらし学習を深められるように古民家4軒を会場に昔の家の中をイメージした再現展示や照明器具の移り変わりを体験できる展示などを行い、展示にリンクした新教材「古民家たんけんブック」を作成。近隣の小学校の3年生と来館した学校に全員配付し、ホームページ上でもデジタル配信しました。また、デジタルコンテンツを組み合わせる学習に活用できるように、前章で紹介した「どこでもみんぱく」に予習復習に特化したページや昔の道具に関するコラムを増設しました。

昨今、先生方から授業の様子を伺っていると、1人1台のタブレットや最新の機器を授業に取り入れ

ている学校も多いようです。技術の進化とデジタルネイティブ世代との格差を痛感しますが、一方で「本物」を見たい」というニーズが無くならないどころか、むしろ増えていることを興味深く感じてきました。

今年度は最終的に18校の小学校の団体見学を受け入れました。環境が整っていない中での展示は充分なものとは言えず、さわられるコーナーもかなり縮小した形にはなりましたが、本物の資料を近くで見ながら夢中でスケッチやメモに取り組む子どもたちの姿は非常に印象的でした。



古民家探検ブックによる見学風景



民家の座敷に上がり、資料を観察する子どもたち

■ “伝える” ための体験プログラム

- 斑鳩西小学校の先生たちとの挑戦 -

これまで、小学校での利用例としては、来館による団体見学か昔の暮らし学習に関する参考資料の貸出が主流でした。学芸員の出張授業を依頼されることもあります。現時点では人員的に難しい状況のため受けることができていません。そのため、地理や時間などの制約によって来館できない学校が見学の代わりに資料を借りるというケースが多く見られます。特に今年は新型コロナウイルスの影響により校外学習を中止・延期する学校が少なくなく、例年

来館している学校でも今年は資料の貸出に切り替えるケースもありました。一方、私たち学芸員自身も、ただ資料を貸し出すだけでなく学習意義を高めるための新しい活用アイデアを模索しているところでした。

そのような中、斑鳩町立斑鳩西小学校の3年生担当の先生たちから授業づくりの相談があり、入念な意見交換と打ち合わせを経て一緒に教材用の動画撮影を行うことになりました。動画といっても実際にユーチューブに投稿するわけではなく「いかにスクープ」という架空の番組ですが、子どもたちにも人気の高い“ユーチューバー”になりきって、昔の暮らしを紹介しようというものです。3名の先生がそれぞれ「あかり」「かまど」「アイロン」をテーマに脚本制作から出演、撮影、演出、ナレーション、編集に至るまで担当されました。当日の撮影も3時間以上にわたり、雨が降る極寒の1月に古民家での撮影は大変だったと思いますが、そこに至るまでも業務の合間で準備をし、休暇を割いて撮影に来られた先生方の教え子への想いと、今の状況を楽しみながら乗り越えようという姿勢に感銘を受けました。

準備の甲斐あって、教材としても動画としてもハイクオリティーな作品ができ上がりました。しかし、動画の編集技術の高さもさることながら、私たちがさらに驚かされたのは、貸出資料の活用方法でした。今回は動画撮影だけでなく参考資料として昔の道具(火のし・炭火アイロン・手燭・羽釜・飯かご・飯釜・飯櫃・スチームアイロン・灯芯・和ろうそく)の貸出もあったのですが、学校へ持ち帰られた後、博物館での実体験と前述の「どこでもみんぱく」を参考に、解説キャプションをつけて学校で展示会を行ったとのことでした。



教材用の動画撮影 かまどを焚く(旧白井家住宅)



教材用の動画撮影 昔のあかり (旧鹿沼家住宅)

これまで、私は博物館の最大の魅力は実物にふれられることであり、学芸員としての意義も対面での解説やサポートによって発揮されるものと考えていました。しかし今回、結果として私たち学芸員は斑鳩西小学校の子どもたちと一度も会っていません。しかしながら、完成した動画や授業風景の写真、そして児童一人一人からもらった手紙を通して、一連の授業がいかに意義深いものであったかを知ることができました。このことは、取り組みの中で先生たちに伝えたことが「バトン」となり、子どもたちの深い学びと発見、感動に繋がったことの証に他なりません。もちろん今回の事例については入念な準備や意見交換、先生方の想いと尽力があつてのものではありますが、直接さわることを以外にも伝える方法はたくさんあるという大きな気づきにもなりました。

後日、奇しくも斑鳩西小学校の3年生の一人と会う機会があり、授業で「いかにしスcoop」を見て民俗博物館へ行ってみたいと思ったと話してくれました。あらゆるものがオンライン化・デジタル化・非接触化されていく今こそ、デジタルだけでもリアルだけでもなく、両方の強みを組み合わせて弱点をカバーし合う新しい形、そしてふれることの可能性についてあらためて考える必要があると感じます。

(3) 新しい時代の、新しいみんぱくへ

令和3年3月3日、民俗博物館は約1年間の耐震補強工事を終えて生まれ変わりました。耐震壁の増築により間取りが変わったことをきっかけに、昭和49(1974)年の開館以来大幅なりニューアルなく受け継いできた常設展を構成から見直し、新しいテー

マと展示パネル、照明器具に加え、4ヶ国語でのタイトル表示、感染症対策を意識した配置や設備など、これからの時代に相応しい博物館を目指して工夫を重ねてきました。慣れない環境の中で教育普及活動を継続することには苦労も失敗もありましたが、今年度の活動全てが新しい展示を考える上でのエネルギーになって私たちを支えてくれたと感じています。

一方、開館当初からある展示パネルやジオラマをあえて残している部分もあります。また、マグネット式の「道具の移り変わり年表」や手作りの再現展示など、アナログな方法の中に新しいアイデアを吹き込んだ仕掛けもこだわりの一つです。新しいスタート地点に立った今、人とモノ、人と人、デジタルとリアルを繋いでいく場所としてたくさんの人に未永く愛されるみんぱくを創っていきたくと思っています。

最後になりましたが、動画撮影を通してたくさんの発見と感動を与えてくださった斑鳩西小学校の船木祐太郎先生・魚谷千晃先生・山田浩輝先生にこの場を借りて心よりお礼申し上げます。



学校での展示会 (写真提供: 斑鳩町立斑鳩西小学校)



学校での展示会 (写真提供: 斑鳩町立斑鳩西小学校)

〈活動報告〉

やまとばた
実技講座「大和機で麻布を織る」のこれまで、これから

横山浩子

(1) 講座の実施経過

本講座は、平成28年度に開催した特別展「奈良さらし—南都の名産ここにあり—」の関連催しとして実施したことに始まる。紡織技術はそれ自体大変複雑で、多くの人にとって展示をみる際の高いハードルとなるため、展示理解の一助になれば、という思いで企画したもので、当初は一年だけの予定であった。

機織り技術自体の習得、あるいは熟達を目指すものではなく、あくまで江戸時代の奈良晒とはどのような布で、どのように作られていたのか、そうした誰でもがもつ素朴な疑問について、自らが体験することを通して考え、郷土の歴史、文化を手掘りする楽しさを実感していただくことが目的である。それ故、江戸時代の奈良晒布と同じ原料を使い、その紡織技術に則して糸を作り、布を織ることにこだわり、特に初心者をはじめ取り組むには難度の高い①からむし(苧麻)を素材とすること、②大和機を使用すること、の2点にも敢えて挑戦した。

■1年目(平成28年度)

講師を伝統織物、特に苧麻・大麻の紡織技術を専門とする澤田絹子氏に依頼。電話による申し込み、先着12名で実施。参加条件は「年間を通じて受講できる」という以外、特には設けなかった。遠くは千葉県、静岡県からの応募もあり、幅広く関心を集めたが、殆どは機織りは初めて、奈良晒云々よりは、とにかく機織りというもの一度してみたかったという方が多かった。

月2回(極暑期休講)、1年間24回で終了する。

まず、各自が経糸、緯糸を作る。3、4名を1グループとして機にセットするのに最低限必要な長さ、約3m、幅25cm(経糸20本/1cm)分の経糸を作り、合同で機掛け、布を織るまでを体験をしていただいた。

一年という長期にわたる講座を終え、参加者からは、一つ一つの工程を自ら体験することによって、今まで全く知らなかった麻織物について知ることができた、また繊維の特性ゆえに、その紡織技術が大変難しく、奈良晒の紡織技術が大変高度なものであることを実感することができた、という一定の評価をいただいた。しかし、予想はしていたものの、作業は難航し、織り上がりには至らなかった。

■2年目(平成29年度)

前年に参加できなかった方から再度の実施要望が多く、加えて前年度の受講生から、機にかけた糸を最後まで織り上げたい、という希望もあり、講座を継続実施することになった。

継続にあたって、前年も講師を務めていただいた澤田先生から、基本は守りつつ、より受講者の充足感を高められるよう実施方法を見直すこと、また、希望者には、3年を期限として継続受講ができるようにすること、など改善

の提案をいただいた。初心者にとって、いきなり自作の経糸による機掛けを行うのはやはり難しい。各工程毎にトラブルを誘



大和機で麻布を織る体験

発し、その対処で精一杯になってしまう。そこで、経糸に苧麻紡績糸を用いることで作業自体の流れをよくし、整経～機上げまでの一連の工程の理解に意識を向けられるようにした。緯は、前年同様自作の糸を使って大和機で布を織り上げる。1年で受講終了しても一連の作業を経験して完結できる。さらに経糸を自作し、経緯とも手績糸の布織りに挑戦したいと思えば、継続受講していただく。

■3年目(平成30年度)

実習項目に腰機を加えた。タイトなスケジュールの中、大和機を基本としている講座で、このことは一見矛盾するようだが、初心者でも比較的短い作業時間で一連の作業が体験でき、織機の構造や織りの原理、各工程の手順と意味など、機織りの骨子を理解しやすい。一つ一つの工程を誤りなく確実、丁寧に行うことの重要性が理解でき、何よりも素朴に機織りそのものの楽しさが味わえる。

さらに重要な点は、この腰機に各自が自作の経糸を掛けるところにある。糸作りに対する意識がわかり、麻織物の勘どころのようなものがみえてくるのである。

経糸と緯糸では、必要とされる精度は全くレベルが

異なる。大和機に経糸をかけるチャンスは3年間継続しても1度だけなので、^{じんぎ}靱皮繊維の経糸についての理解を深めることができる経験は貴重である。

腰機の導入は、講座の運営上もメリットがある。現在講座に使用している大和機ほか作業に用いる諸道具は台数に限りがあり、滞留による時間のロスがないよう講師が個々の作業の進捗を睨みながら調整しているが、腰機の実習は、作業ローテーションの上でも有効に機能し、講座全体の流れがよくなった。

■4年目・5年目(令和元年度・2年度)

こうして講座内容がほぼ固まったところで、当館が、令和2年2月からほぼ1年をかけて耐震補強工事を行うことが決まった。講座会場としてきた博物館の講義室も使用できなくなるが、ここまでの蓄積を思うと、講座の中断はいかにも残念に思われた。令和2年度の新規募集は行わないが、継続受講者20名で、民俗公園に移築復原されている民家、旧岩本家住宅を仮の会場として実施することにした。

しかし、予想していなかった新型コロナウイルスの流行によって、令和2年3月から、結局当講座も休止を余儀なくされることとなってしまった。実質再開できたのは10月から、もともと移築復原された重要文化財の民家で、講座を開催するには設備上不便な点も多い上に、コロナ感染防止対策に関わる諸制限が加わり、糸作り(苧績み)、大和機による製織など、ごく限られた作業しかできなかった。この間、講師、受講者各位には様々な不自由をおかけしたこと、またそれにも関わらず、ご寛恕、ご協力いただいたことに深謝したい。



腰機で布を織る
緯糸には講座で苧ひきした繊維を使う

(2) からむしの使用と苧引きの実習

講座で最も重要な要素となっているのが、福島県大沼郡昭和村のからむし(苧麻)を使用することである。江戸時代の奈良晒は、遠隔の地で産する羽州苧を用いることを大きなセールスポイントとしていた。また、この原料なくしては奈良晒布の地合、風合いは生まれ得なかった。からむしの理解、産地と栽培と加工技術についての理解は、奈良晒を理解する上で不可欠である。

当時、国内最高級のからむしの産地は東北地方、現

在でも唯一その伝統を受けついでいるのが昭和村である。生産量は非常に限られており、重要無形文化財に指定されている越後上布・小千谷縮の原材料供給を主とし、その他公益的な目的での例外的な使用しか許されない。当館では、平成12年度特別展「奈良晒—近世南都を支えた布—」以来、奈良晒に関する調査・研究などで、幾度も有形無形のご協力をいただいている。

当講座では、大和民俗公園内で苧麻を栽培し、日程中1日を苧麻の刈り取りと苧ひき体験にあてている。もちろん、昭和村産のからむしとは全く別物である。しかし、それゆえに、昭和村が守り続けてきた品種、栽培・加工技術が、他に追従を許さない高レベルのものであることを、身をもって実感できる。

昭和村のからむしに対する敬意、無駄にしているはいけないという気持ちが生まれ、実習後には受講生の苧の扱いも以前とは明らかに変わる。



苧引きの実習

(3) 講座のこれから

コロナ禍が未だ続く令和3年度は、前年度に引き続き新規受講者の募集は行わず、博物館本館に会場を戻し、2期生(H29年度)、3期生(H30年度)、4期生(R元年度)計20名の継続受講生での仕切り直しとなる。

1年余り、作業の停滞があったが、民家という独特の空間で、互いに感染防止に気を使い緊張感を持ちながら、少人数づつでも続けてきたことで、会話は少なくとも互いに心をつなぐことができる雰囲気醸成され、講座自体は活気づいてきている。

予断を許さない状況ではあるが、参加者の希望に応え、継続的に学べる場を提供し、技術向上にも目を向け、将来的には近世期に織られた奈良晒の原布再現の夢を語れるような、仕組みの整備、次代の指導者の育成など、少しずつ新たな目標にも取り組んでいきたい。



民家での実施風景

みんなく春夏秋冬

令和2年度の活動報告

令和2年2月3日から令和3年3月2日まで本館を休館し、耐震補強工事を実施。

また、新型コロナウイルスの影響によって、当初予定していた催事の中止、規模縮小など、活動の制限を余儀なくされました。

【展示】

1. 本館の展示

展示室の耐震補強工事のため、常設展、企画展、コーナー展、玄関ホール展は休止。休館期間中に、常設展の展示及び展示解説パネル、照明、来館者用トイレなどの更新、改修をあわせて行いました。

2. 民家園の展示

(1) 「夏の道具と戦時下の暮らし」

会期：8月1日(土)～8月30日(日)

場所：国中集落 旧吉川家住宅

①夏の道具 暑い夏を涼しく、快適に

水うちわ、扇風機、飯かご、蚊やり豚、打ち水の工夫など、夏の用具とそこに込められた知恵について紹介。

②戦時下の暮らし 戦時の備え

防空カバー、防空頭巾、防火バケツ、火叩き、防毒マスクなどの実物資料に「人貴キカ、物貴キカ 一空襲直後の帝国会議」ほかパネルを合わせて展示し、第二次大戦当時の防空法、灯火管制について紹介。

(2) 「昔の暮らし」

会期：9月5日(土)～12月6日(日)

場所：町屋集落・国中集落

秋の小学校団体見学にあわせ、例年本館常設展示室で展示していた「昔の暮らし」を古民家4棟を使って展示しました。

①昔の暮らしの再現 旧白井家住宅

ちゃぶ台、飯びつ、七輪、まな板、水切り笊など、食と住に関わる用具を展示。室内に上がって、

ちゃぶ台のところに座ってみるなどの、小さな体験も。

②昔のあかり 旧鹿沼家住宅

行灯、手燭、燭台、有明行灯、石油ランプなど灯火用具を展示。それぞれの点灯時の明るさを再現し、往時の住環境を体感できるのは民家ならではの。コロナ禍の中、非接触での体験プログラムの可能性を示すことができました。

③昔の農家 旧吉川家住宅

唐臼、箱火鉢など民家に関わる用具とあわせて、唐箕、こも編み機など稲作に関わる仕事と道具を紹介。

④体験コーナー 旧萩原家住宅

背負いカゴ、洗濯板、子どもの着物、昔のおもちゃなど



夏の道具と戦時下の暮らし



昔の暮らし

(3) 古民家でひなまつり

会期：2月13日(土)～3月7日(日)

→催し物4に詳細記載

3. サテライト展示

*出張ワークショップとあわせて実施

(1) イオンモール大和郡山

①8月3日(月)～4日(火)

民俗博物館・大和民俗公園紹介パネル、夏に因んだ昔の生活用具(電気扇風機・蚊やり豚・手回し式かき氷機など)を展示。

②1月30日(土)～31日(日)

民俗博物館・大和民俗公園の施設紹介

(2) 奈良県立図書館

12月15日(火)～27日(日)

「奈良の鹿のひみつ in 図書情報館」

[共催] 一般財団法人 奈良の鹿愛護会
奈良県立図書情報館

鹿をモチーフにした郷土玩具、明治～昭和期の絵葉書、鹿せんべいの焼き型、川崎巨泉が大正～昭和時代にかけて描いた奈良の郷土玩具（資料提供：大阪府立中之島図書館）などを展示し、鹿と人の暮らしとその歴史を紹介。



奈良の鹿のひみつ in 図書情報館

【デジタルコンテンツ公開】(新規)

耐震補強工事による博物館本館の休館、新型コロナウイルス流行に伴う団体見学や催し物の開催制限などを機にデジタルコンテンツを公開。

- ①館蔵資料の新しい展示のかたちを作る
- ②実物とデジタルを組み合わせる活用を広げる
- ③様々なニーズに応え多彩な資料の魅力を伝える

1. 季節のスペシャルコンテンツ(期間限定)

(1) 子どもの日スペシャルコンテンツ

おうちで季節の行事を楽しもう！

公開期間：5月1日(金)～31日(日)

- ・端午節句の季節を感じる工作、お菓子作り、お弁当のアイデア紹介
- ・端午節句にまつわるもの(鯉のぼり、兜、菖蒲など)解説

(2) 梅雨のスペシャルコンテンツ

雨の日も季節を感じてたのしく過ごそう

公開期間：5月31日(日)～6月30日(火)

- ・雨、アジサイにまつわる風習の紹介
- ・季節を感じるアイデアいろいろ
季節のアイシングクッキー／昔ながらの梅干しで初夏のお弁当づくり／雨の日が楽しくなる傘を作ろう／アジサイアルバム／アジサイぬりえ

(3) 夏のスペシャルコンテンツ

作って、遊んで、夏を楽しもう

公開期間：7月1日(水)～9月1日(火)

- ・100年前の野球ゲーム
- ・日本の夏を代表する昔の道具(ぬりえと豆知識)



デジタルコンテンツの公開

2. どこでもみんぱく

公開日：9月5日(土)～(随時更新)

当館展示室や民家園での見学、学校の授業などにも活用していただけます。

- ・昔の道具ものしり図鑑
- ・道具とくらしの移り変わり
- ・あかりの物語
- ・昔の家を探検しよう
- ・ワークショップアイデア集
- ・古民家探検ブック



デジタルコンテンツの公開

【催し物】

1. ワークショップ・体験学習

(1) ワークショップまつり

*本館は休館中のため、民家園を会場に実施

①夏のワークショップまつり

8月8日(土)～10日(月・祝)

- ・竹工作 竹ポンプ作り(66名)
- [協力] 矢田の里たけのこクラブ

- ・折り染めのうちわ作り (32名)
- ・和風の展示
[協力] 平塚岩夫氏
※本年度は、新型コロナウイルスの感染防止対策と之に伴う緊急事態宣言発令により、ゴールデンウィークの「子どもの日ワークショップまつり」は中止しました。

(2) 出張ワークショップ

- ①イオンモール大和郡山
 - ・8月3日(月)・8月4日(火)
 - 「ミニガラス瓶の風鈴作りと夏の風物詩めり絵」 (101名)
 - ・11月30日(土)・31日(日)
 - 「作って飾ろう! お団子おひなさま」 (59名)
- ②平城宮跡歴史公園 いざない館
 - ・11月7日(土)
 - 「秋の紅葉せっけんを作ろう」 (25名)



①夏の風物詩めり絵



②秋の紅葉せっけんを作ろう

- ③図書情報館サテライト展覧催し
[共催] 一般財団法人 奈良の鹿愛護会
奈良県立図書情報館
 - ・12月20日(日)
 - 「豆鹿皿づくり」 (40名)
 - ・12月26日(土)
 - 「鹿苑」見学会 (9名)

2. みんなく秋まつり

11月21日(土)～23日(月・祝)
民家園町屋、国中集落
「作る・食べる・体験する」をテーマに秋らしい食べ物やワークショップ、手作り品の販売、邦楽の演奏、和太鼓のパフォーマンスなどの多彩なプログラムで構成。
[参加・協力]
カナタコナタ / 平城宮跡管理センター / 角砂糖 /

帝塚山大学 / むろうはちみつ / 民芸寺子屋 / 矢田の里たけのこクラブ / 里山の駅風とんぼ / 紙芝居工房・適 / 一般財団法人 奈良の鹿愛護会 / 楽鼓グループ / 郡山邦楽友の会 / Indi 庵 / すいれん薬局



みんなく秋まつり

3. お正月あそび&七輪体験

1月5日(火)・6日(水)

展示、ワークショップ、パフォーマンスを組み合わせた4つのプログラムで季節を感じ、歳時を楽しむ。

- ①和風の展示
- ②アイロンビーズでコマ作り (61名)
- ③七輪でオリジナルおかき作り (30名)
- ④和太鼓の演奏&獅子舞の上演
[協力] 平塚岩夫氏 (和風製作・展示協力)
民芸寺子屋 (芸能公演)



お正月あそび&七輪体験

4. 古民家でひなまつり&梅まつり

3月6日(土)～7日(日)

民俗博物館本館・民家園周辺
民俗博物館本館が令和3年3月3日に再オープンするにあわせ、例年の「古民家でひなまつり」に多彩なプログラムを加え、本館、民家園が一体となって催しを実施。
・雪うさぎと梅の石けん作り (本館)

- ・木工のグライダー (旧吉川家)
- ・蜂蜜入り蜜ろうハンドクリーム作り (旧鹿沼家)
- ・レトロ紙芝居&クイズ (町屋エリア)
- ・洋食屋さんのかまどカフェ (旧白井家)
- ・子ども和太鼓教室&春の特別公演

この他、薬膳養生茶の販売、梅のスタンプラリー、しだれ梅のライトアップなど

[参加・協力]

矢田の里たけのこクラブ / 民芸寺子屋 / 角砂糖 / むろうはちみつ / すいれん薬局 / 紙芝居工房・適

【指定文化財 (民家) の保存修理】

令和元年度より、民家園吉野集落において移築復原民家の杉皮葺き屋根の葺き替え工事を実施中。本年度は、旧前坊家住宅の渡廊下と、旧木村家住宅の納屋の屋根葺き替えを実施。

葺き替え工事中と、完了後の2度にわたり見学会を実施するとともに、修理現場を俯瞰できる箇所に見学台を設け、随時工事の様子や、葺き替え前後の屋根の違いなどを、随時見学できるようにしました。

1. 指定文化財修理現場見学会

令和2年11月21日 (土)・22日 (日)

旧前坊家住宅渡廊下、旧木村家住宅納屋

葺き替え工事に足場を利用し、現場見学会を実施。原材料の製造工程や、離座敷の修理状況、当館民家園の全体の民家についてのパネル展を実施。

(542名)



旧前坊家修理現場見学会

2. 旧前坊家住宅屋根葺き替え完了記念 旧前坊家住宅、旧木村家住宅内部特別公開

令和3年3月6日 (土)・7日 (日)

旧前坊家は、屋根の葺き替えにより雨漏り等が改善されたため、通常は非公開としている室内を整備し、2日間限定で公開。併せて、パネル展も実施。

(543名)

【連続講座】

「大和機で麻布を織る」(2~4期生)

期間：令和2年10月~令和3年3月

[講師] 澤田絹子氏

新型コロナウイルスの流行これに伴う非常事態宣言発令等のため、令和2年3月~8月まで休止。

9月に本年度の実施方法について説明会を開催。

10月から再開。耐震補強工事実施のため、旧岩本家住宅を会場として実施。

【はたおり実演】

実施日時：令和2年10月~3月の第4日曜日

[協力] 澤田絹子氏

【学校・博物館との連携・協力】

1. 大学との連携(連携協力に関する協定締結)

(1) 継続 (平成23年度協定締結)

帝塚山大学大学院 人文科学研究科日本伝統文化専攻後期博士課程在籍者のインターンシップ受け入れ。(令和2年度は希望者なし)

(2) 継続 (平成29年度協定締結)

京都芸術大学との有形民俗資料の保存・継承、活用に関する教育研究活動についての相互協力。館蔵資料を修復の実習資料として貸出。

2. 展示見学・解説・出張授業等

- ・8月27日 (木) 黒滝村教育委員会 (5名)
- ・9月16日 (水) 天理大学文学部 (16名)
- ・9月18日 (金) 橿原市立耳成小学校 (72名)
- ・9月24日 (木) 王寺町立王寺小学校3年生 (98名)
- ・9月25日 (金) 斑鳩町立斑鳩西小学校4年生 (85名)
- ・10月9日 (金) 香芝市立下田小学校3年生 (133名)
- ・10月16日 (金) 奈良市立明治小学校4年生 (56名)
- ・10月20日 (火) 広陵町立真美ヶ丘第二小学校3年生 (78名)
- ・10月22日 (木) 三郷町立三郷小学校3年生 (64名)

- ・10月23日(金) 奈良市立右京小学校 (37名)
大和高田市立高田小学校3年生 (66名)
- ・10月30日(金) 大和郡山市立郡山西小学校
3年生(95名)
- ・11月5日(木) 奈良市立伏見小学校3年生
(136名)
- ・11月10日(火) 奈良市立鶴舞小学校3年生
(62名)
- ・11月13日(金) 宇陀市立大字陀小学校3年生
(40名)
- ・11月19日(木) 帝塚山小学校 (81名)
- ・1月14日(木) 大和高田市立浮孔小学校3年生
(60名)
- ・1月29日(金) 奈良市立富雄南小学校3年生
(119名)
- ・3月3日(水) 大和郡山市矢田小学校2年生(38名)
- ・3月5日(金) 川西町立川西小学校3年生(61名)

3. 有形民俗資料、写真等の貸出・提供

- ・映像資料「大和の民俗」22点〔教材〕帝塚山大学
- ・2019年度秋季特別展展示室内〔写真掲載〕個人
(民具マンスリー 53巻6号)
- ・犁の使用風景〔写真掲載〕個人(烏根日日新聞)
- ・映像資料「大和の民俗」23点〔教材〕帝塚山大学
- ・唐箕、千歯抜き、備中鍬〔画像転載〕(有)オフィス・イデオム(『学研マンガNEW日本の歴史』)
- ・稲作、民家等23点〔写真掲載〕個人(『柏木町史』)
- ・小絵馬(十六日、ハート)〔写真掲載〕個人(シンポジウム資料)
- ・唐箕3D計測写真〔写真掲載〕
株式会社文化財サービス(自社パンフレット)
- ・当館外観、令和元年度、2年度修復実習資料
〔動画制作〕京都芸術大学(学園祭オンライン開催)
*連携協力協定関連
- ・千歯抜き、備中鍬、唐箕〔テレビ番組制作〕
(株)テレビ朝日
- ・火のし、炭火アイロン、手燭、枕、羽釜(台とも)、
飯かご〔資料貸出〕香芝市立二上小学校(教材)
- ・小絵馬(十六日、ハート)〔写真使用〕個人(講演資料)
- ・蓑、笠、わらぐつ〔資料貸出〕大和郡山市立矢田
小学校(教材)
- ・御殿雛一式〔写真掲載〕京都芸術大学(入学案内資料)

*連携協力協定関連

- ・犁使用風景〔写真掲載〕枚方市立旧田中家鋳物民俗資料館(教育パック【地域文化の宝箱】「枚方の鋳物づくりと昔の暮らし」)
- ・稲作工程写真、同映像21点〔画像・動画資料貸出〕
明石市立文化博物館(展示及び関連催し解説資料)
- ・千歯抜き〔資料写真転載〕(株)毎日映画社(東京書籍「中学校社会」視聴覚教材)
- ・糸車<体験用>〔資料貸出〕広陵町立広陵西小学校
(教材)
- ・火のし、炭火アイロン、手燭、羽釜(台とも)、飯かご、
飯フゴ、お櫃、スチームアイロン、燵・和蠟燭<体験用>
斑鳩町立斑鳩西小学校(教材)
- ・綿繰器、糸車<体験用>近畿大学附属小学校(教材)
- ・奈良茶碗8点〔写真掲載〕(株)淡交社(『茶粥・茶飯・
奈良茶碗』)
- ・糸車<体験用>〔資料貸出〕天理市立井戸堂小学校
(教材)
- ・糸車、綿繰器<体験用>、火のし、炭火アイロン、
手燭、回転ごたつ、枕〔資料貸出〕上牧町立上牧
第三小学校(教材)
- ・万石どおし〔写真掲載〕(株)清水書院(『高等学校
日本史探究』)
- ・洗濯板、たらい、綿繰器<以上体験用>、火のし、枕、
飯フゴ・お櫃、雪ぐつ、蓑〔資料貸出〕奈良県立
ろう学校(教材)
- ・洗濯板<体験用>、火のし、炭火アイロン、枕
〔資料貸出〕天理市立二階堂小学校(教材)
- ・火のし、炭火アイロン、手燭、回転ごたつ、飯フゴ・
お櫃、飯かご、扇風機、黒電話〔資料貸出〕奈良
市立二名小学校(教材)

4. 資料の特別閲覧(写真撮影等含む)

- ・唐箕〔特別閲覧〕個人(調査)
- ・小絵馬〔特別閲覧、写真撮影〕
- ・シビグツ〔特別閲覧〕奈良県立同和問題関係史料
センター(研究論文執筆にかかる資料調査)
- ・曲物製品〔特別閲覧〕個人(研究論文執筆にかか
る資料調査)

奈良県立民俗博物館だより Vol.46 No.1 (通巻112号)
2021(令和3)年3月23日発行
編集発行 奈良県立民俗博物館
〒639-1058 大和郡山市矢田町545番地
Tel0743-53-3171 / Fax0743-53-3173
印刷 株式会社アイピロム
〒636-0246 磯城郡田原本町千代360-1
Tel0744-34-3030 / Fax0744-34-3040